

Ⅶ その他 2 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
<p>(1) 方針 本学の人材を活用し、かつ、有能な人材を確保していくことを基本として、柔軟な組織の構築等により、機動的・流動的人材配置を実現するため、長期的かつ計画的な人員配置を遂行する。</p> <p>(2) 指針 職員の適性に配慮しつつ適切な人員配置を推進するとともに、評価制度等を確立する。また、本学の戦略により職員の重点領域への配置を図る。</p> <p>(参考) 中期目標期間中の人件費総額の見込 31,241百万円 (退職手当は除く)</p>	<p>総人件費を抑制しつつ人事基本方針に基づき、次の事項を重点に置いて計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の人事は、教育研究の将来構想の実現と目標の達成の視点による人材配置を行うため、引き続き人事計画を人事委員会で確認・審査し、公募する人材の専門・実績等本学の要求を明確にして優秀な人材確保に努める。 また、大学方針に基づく重点・戦略組織には、学長裁量の教員配置を引き続き行う。 ○ 特任教員制度を積極的に推進し、幅広い人材の活用を図る。 ○ 事務職員は、勤務成績・能力を重視した年齢・年功にとらわれない若手登用及び女性の登用を積極的に行うとともに、公平・公正な人事評価に基づいて必要な処遇を行い職場活性化に繋げる。 ○ 技術職員にあっては、切れ目のない技術支援を行えるよう人材を確保・育成し、次世代リーダー育成にも努める。 ○ 再雇用職員、有期雇用非常勤の専門職を大学業務運営を支える人材と位置付け、ベストポジションでの活用を図る。 <p>(参考1) 平成20年度の常勤職員数 461人 また、任期付き職員数の見込みを29人とする。 (参考2) 平成20年度の人件費総額見込み 4,786百万円 (退職手当は除く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の人事は、中・長期的視点に立ち計画的な人材配置を行った。また、教員人事における客観性・透明性を高めるため、前年度分の人事計画から採用決定までの経過を大学ウェブサイトにより学内に公表した。 ○ 学長裁量枠を活用して、美術工芸資料館教授1名を配置し、研究推進本部教授1名の配置を決定した。 ○ 特任教員制度を活用して、重要無形文化財保持者(人間国宝)を委嘱する等、幅広い人材の活用を図った。 ○ 人事評価に基づき女性職員を係長等の監督者に積極的に登用した。 ○ 技術職員の次世代育成につなげるべく、2名の新規採用を決定した。 ○ 再雇用職員の大学への貢献意識と豊富な知識・経験を組織的に活用する「KITビューロー」の設置を決定した。 ○ 特任専門職就業規則を制定し、優れた専門性を有する人材を有期雇用の専門職として2名雇用した。 (実績1) 平成20年度の常勤職員数 457人 うち任期付き職員数 30人 (実績2) 平成20年度の人件費総額 4,719百万円 (退職手当は除く)